

NEW OKUNO HOSOMICHI-YAMAGATA 新・奥の細道

一周ルート

⑱

蔵王信仰へのみち

Zao-shinko-e-no-michi



山形県

周辺のアクセスガイド

- ・かみのやま温泉駅からバス又は車で20分。
- ・上山市榎下までは
- ・かみのやま温泉駅からバス又は車で15分。
- ・上山市永野までは



| | | |
|------------|---------------------------------------|---------------|
| 観光・宿泊のお問合せ | 上山市観光協会 〒999-31 上山市南町8-21 | ☎0236-72-0839 |
| | JRかみのやま温泉駅観光案内所 〒999-31 上山市矢来1-1-1 | ☎0236-72-5703 |
| 交通のお問合せ | JRかみのやま温泉駅 〒999-31 上山市矢来1-1-1 | ☎0236-72-0049 |
| コースのお問合せ | 上山市商工観光課 〒999-31 上山市河崎1-1-10 | ☎0236-72-1111 |
| | 山形県環境保護課 〒990-70 山形市松波2-8-1 | ☎0236-30-2207 |

表紙の写真は、旧尾形家住宅

GUIDE

みどころ案内

生居川ダム (愛称:花森湖)

Namaigawa-damu

上山市を貫流する須川の東側に展開する544haの水田地帯があり、生居川だけの水だけでは農業用水の絶対量が足りないことから、江戸時代より蔵王川から導水し、かんがい用水として使用されていました。

蔵王川は、蔵王火山帯から流れてきており、硫酸鉱毒を含んだ強酸性で稲作に不適なため、根腐れや品質低下の影響で減収を余儀なくされていました。

こうした鉱毒水による農地の被害を抜本的に解消するため、蔵王川の支流・仙人沢の真水を鉱毒水の蔵王川に合流する前に取水して生居川に導水するとともに、真水を蓄えるダムが建設されました。



生居川ダム

生居川ダムは265万立方メートルの恵の水を貯留するもので、花森湖の愛称で地域の方々にも親しまれています。

重要文化財 旧尾形家住宅

Kyu-ogatake-jutaku

昭和44年12月18日、国の重要文化財に指定され、修復工事は、総予算5,100万円、昭和51年6月30日に竣工しました。

尾形家は代々庄屋をしていた家柄で現在の当主・宗一氏は72代目となっています。文化庁の調査によると、尾形家は、構造や手法からみて、17世紀に建てられたものとみられ、中門造り曲がり家で屋根は茅葺き寄棟造り、堂々たる建物には上層家者が持つ独特の風格が感じられます。

建物内部は、上手から鉤(かぎ)の手に続く座敷が4部屋と、座敷の裏側にある寝室、そして下手の3室などからなる豪華な造りとなっています。建築にあたって釘を一切使用していない「釘なし工法」がとられている建築史上貴重な資料となっています。

また、代々尾形家には、池に祭ってある生石大明神がありますが、古くは生石あるいは小持石と言われ、それが「生居:なまい」という地名の語源になったものと伝えられています。



五巴神社・牧野村庄屋太郎右衛門の屋敷跡

Itututomoiejinja・Makinomura-shoya-taroemon-no-yashikiato

江戸時代の中期、延享2年(1745)からの天候不順による大凶作に端を発した見目ヶ原騒動。

延享4年(1747)5月、見目ヶ原におよそ3,000人とも言われる農民が集結し、領主に政治的要求をした見目ヶ原百姓一揆の責任者牧野村庄屋

蔵王の山々はいまでこそ、お釜、スキー、温泉と観光の名所となっていますが、かつては山岳信仰の山でした。そのころ、このみちは羽州街道から蔵王山麓へたどるみちで、いまでもその名残を感じることができます。

また、花森湖(生居川ダム)では、雄大な自然と美しい四季の風景を楽しめます。コース沿いには、こんにやく・紅つるし柿などの特産品も多く、郷土の味覚も十分に楽しめます。

太郎右衛門父子ら5名は打ち首となりました。

五巴神社は、5名の遺徳を顕彰し、後世に伝えるため牧野村民が発起人となって近隣村民有志に呼びかけ、明治29年4月21日、旧太郎右衛門屋敷跡であったこの地に造立したものです。その後、大正11年社殿を建立し、毎年4月21日を祭典日とし、5名の遺徳を偲ぶとともに、その義挙に対し感謝の誠を捧げています。



五巴神社石碑

上山の石造文化財 如来寺石幢

Nyoraiji-sekido

牡野地区の田園の中に立つ、スマートな石幢です。高さ約2.58メートル重制の六面幢。基礎と笠は凝灰岩、幢身と龕部(かんばん)は石英粗面岩を用いており、龕部と中台は一石から刻出されています。

※石幢…六角又は八角の石塔で中国から伝わり、室町時代以降に各地に立てられた。



如来寺石幢

こんにやく番所

Konnyaku-bansho



こんにやく懐石

ノンカロリーフーズとして一世を風靡した「こんにやく」。榎下宿名物のこんにやくは一味違います。「刺し身こんにやく」「こんにやくそば」、中でも「こんにやく懐石」は全国でも珍しい料理と言えます。また、さまざまにアレンジされたこんにやく料理のフルコースが味わえます。

羽州街道・榎下宿

Ushu-kaido・Narageshuku

宮城県七ヶ宿から金山峠を越え、上山に抜ける羽州街道にある小さな宿場町が榎下宿です。

榎下宿は、かつて参勤交代の行列が行き来していた頃には、20件以上もの旅籠(はたご)が立ち並ぶ賑やかな宿場町でした。ここを宿場として利用した参勤交代の領主は、「新庄藩」「庄内藩」「秋田佐竹藩」など、奥州では実に13藩にもおよびました。

現在の榎下宿は、格子戸に昔の面影をとどめた家が立ち並ぶ、しっとり

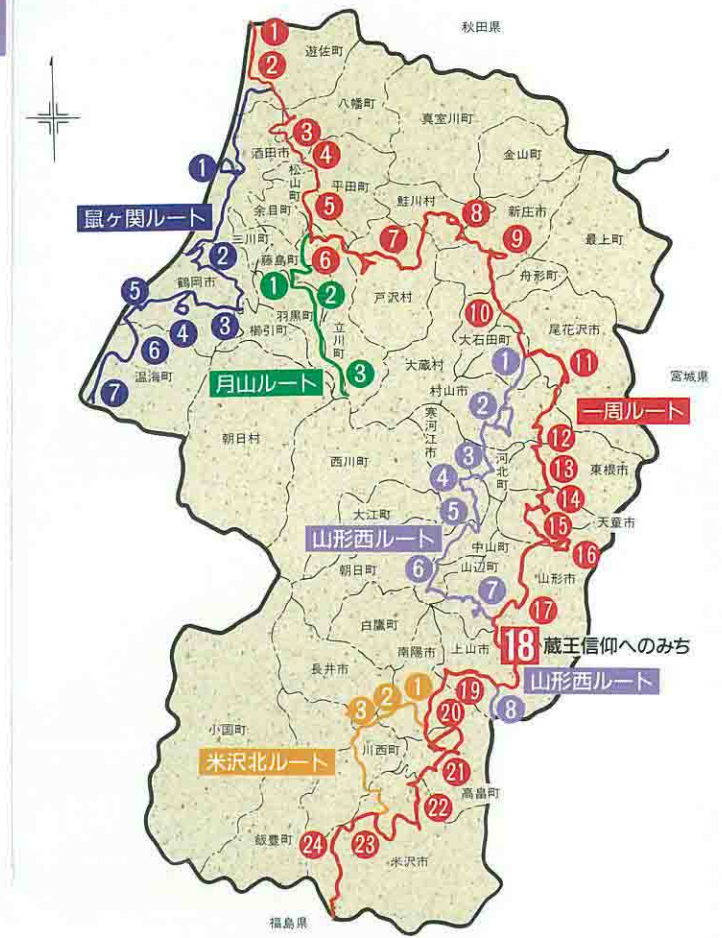


下町めがね橋

りと落ち着いた街道沿いの街です。時代の波にあらわれて、昔の面影は薄れつつありますが、「滝沢屋」「庄内屋」といった昔ながらの屋号で呼び合う習慣は今なお受け継がれています。

YAMAGATA MAP

東北自然歩道(新・奥の細道)ルート図



“新・奥の細道”とは

自分の足でゆっくり歩きながら、森や川、野鳥や虫など豊かな自然にふれあい、また、その地域の特色ある文化や歴史と親しむためのみちです。

“新・奥の細道”は正式には東北自然歩道といいます。この自然歩道は、一日で歩ける程度の遊歩道を1つのコースとして、コースの間をバスなどでつなぎながら東北を一周する長距離自然歩道です。そして、この道は福島県白河を起点とし、宮城、岩手、青森、秋田、山形の順で経由して福島県郡山に至るルートになっています。

また、この“新・奥の細道”は東北を一周するルートの他に、景観の優れた地域や名勝地等に向かうルートがあります。県内でも、月山ルート・鼠ヶ関ルートなど4つのルートがあり、山形県内のルートをあわせた総延長は45コースで469kmとなっています。

この“新・奥の細道”を楽しむために

1. コースのみどころ、地形、距離をあらかじめ調べて、余裕のある日程を組みましょう。
2. 歩きやすい服装で、荷物は最小限にとどめましょう。
3. 天気予報に注意して、天気のいい日を選んでゆっくり歩きましょう。

この3つを守り、友人と、家族と、さあ出発!

おねがい

- ・ゴミは捨てないで持ち帰りましょう。
- ・たばこの投げ捨てや、山火事には十分注意しましょう。
- ・案内板や休憩所はみんなのもので、大切にしましょう。
- ・美しい自然は、人間だけのものではありません。草花や虫たち、小鳥たちのためにも自然を汚さないようにしましょう。
- ・そして、美しい自然を後世まで伝えていきましょう。

このみちは、年金積立金元還元融資を受けてつくられました。